

ていまして、すごく見劣りがして困ったなと思つているところでございます。

そのようなわけで、文書館に森戸辰男記念文庫ができあがりました。いま、それを分析して整理中でございますが、この整理がきちんと済んだ暁には、みなさんが全部を閲覧することができるようになると思つています。現在でも館長と相談すれば、きつと全部見せてもらえると思つています。森戸先生にかかわるいろいろなできごとについて調べたいと思われる方は、世界中からここに来るしかないということになり、広島大学の大きな財産の一つになっております。これは最初の仕事で、次々といろいろな文書が蓄えられていくものと思つております。また、広島大学の事務的な公文書に関しても、ここで整理する予定になっております。

本日は、文書館の設立および森戸辰男記念文庫の完成を記念いたしましてシンポジウムを開くことになりました。どうぞ、みなさん、ご静聴いただきますようお願いいたします。本日はどうもありがとうございます。

(むた たいぞう・広島大学長)

あいさつ

木田 宏

このような森戸先生の記念文庫が広島大学にできまして、本当に素

晴らしいことだと思つております。私と森戸先生との関係等について、若干、思い出を話させていただきまして、ご参考にしていただければと思つています。

ただいま、ご紹介がございましたように、私は長いあいだ文部省に勤めておりまして、特に大学をお世話させていただくことになったものですから、森戸先生とのご縁もいろいろな意味で深くなつてまいりました。

私が森戸先生に一番教えていただきましたことは、大学というものが、大学として、どう考えなければならぬかということでございます。森戸先生は、一三年間、広島大学の学長をなさつておられましたときに、世界の大学長の集まりである国際大学協会のアジアの理事もなさつておられました。ちょうど昭和四〇年ですか、私が文部省でユネスコ関係の仕事を担当しておりましたときに、「君、今度、僕が国際大学協会の総会を東京で開くことにしたから、二年間かかつて、その準備を担当してくれんか」というお話がございました。私は文部省で仕事を持つておりましたけれども、ほとんど一年間は、森戸先生の国際大学協会という、五年に一回ずつ世界大会をやつて四百校ぐらゐがお集まりになる国際会議の受け入れ役を処理させていただきました。言葉ができるわけでもないし、それまでは日教組（日本教職員組合）対策課長などというあだ名をもらひまして、国内の仕事ばかりをやつていたので、世界の大学がどうなつているかというようなことについて何にも知らなかつたのでございます。しかし森戸先生のご指示によつて、そのような仕事をさせていただいたために、大学というも

のが国際社会でどのような機能を持って、どのような仕事をしているかということをお話していただくことができました。

そのときに、ここには先生方がたくさんいらっしゃいますので少し言葉がきついかもかもしれませんが、日本の先生方は、それぞれのご専門のことについて常に立派でございしますが、大学のマネジメントということは、ほとんどお考えにならない。私学の先生は、まだそろばん勘定で、これだけやったら学生がどうなつて、お金がどうなるということを考えて議論をなさいますけれども、国立の学校の先生は、ご専門のこの追求に非常に強い意欲をお持ちですが、大学全体としてどうマネージするか、国際的な大学としてのお使いをどうするかということについて、はなはだ無関心だったように思います。

その五年に一度の会議を東京で開きましたときに、各国の学長さん方は「Hey! John come on」とあいさつをされるのに、日本の学長さんは、誰一人としてそういうことはおっしゃらない。「How do you do, sir?」という、ごあいさつがはじまるのです。そして五年が経過して、なお続けていらつしやる日本の学長さんはきわめて少なくなる。私は、これでは日本の大学は具合が悪いなということを森戸先生に教えていただきました。ですから一年半ほどユネスコに席を置いて、まったく役所の仕事をしないで、学長さんの国際会議を、国公立の学長を相手にしながら、ご注文を聞いて仕事をさせていただいたのですが、これはいかんと。大学全体としてどういう議論をして、どのように対応しなければならぬかということをお話していただいたのが、森戸先生でございました。たまたま私も戦前の広島高等学校

の出身でございますし、また、森戸先生のお話を承知の上で歩いたわけではないのですが、福山誠之館の後輩でもございました。それはあとの話なのですが、大学というものをどう考えるかという視点を教えていただいたのは、森戸先生でございました。広島大学の学長としても一三年間お勤めございましたが、そのようなご縁があつて、森戸先生のおかげで大学という議論をさせていただくことができるようになったということが、非常に強い思い出でございます。

今回、その森戸先生が一三年間ご指導になりました広島大学に、基本的な文書（もんじょ）が全部集められたということは、本当に素晴らしいことだと思っております。ここから、日本の大学論がずっと起こつてまいりますことを祈念して、ごあいさつにさせていただきます。ありがとうございます。

（きだ ひろし・元文部事務次官・松下教育研究財団顧問）

基調講演

広島大学文書館の目指すもの

—広島大学文書館の現在とこれから—

小池 聖一

はじめに

広島大学文書館は、広島大学の「文書館」（ぶんしょかん）と呼ばれます。